



2021年6月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月3日

上場会社名 株式会社湖池屋
 コード番号 2226 URL <https://koike-ya.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 小池 孝
 (氏名) 藤巻 修道
 TEL 03-3979-2116

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第2四半期の連結業績(2020年7月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第2四半期	19,415	8.8	1,293	197.0	1,317	180.8	874	267.0
2020年6月期第2四半期	17,840	4.6	435	61.9	469	51.6	238	64.6

(注) 包括利益 2021年6月期第2四半期 880百万円 (258.5%) 2020年6月期第2四半期 245百万円 (50.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第2四半期	164.01	
2020年6月期第2四半期	44.68	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第2四半期	28,107	13,302	47.0
2020年6月期	22,868	12,693	54.9

(参考) 自己資本 2021年6月期第2四半期 13,200百万円 2020年6月期 12,565百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期		0.00		45.00	45.00
2021年6月期		0.00			
2021年6月期(予想)				45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年6月期の連結業績予想(2020年7月1日～2021年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,500	4.7	1,400	38.2	1,400	24.3	950	47.5	178.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細につきましては、本日(2021年2月3日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 有

会計上の見積りの変更 : 有

修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更) (会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年6月期2Q	5,335,000 株	2020年6月期	5,335,000 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2021年6月期2Q	873 株	2020年6月期	873 株
------------	-------	----------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年6月期2Q	5,334,127 株	2020年6月期2Q	5,334,157 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は2021年2月12日(金)に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、国内においては高付加価値商品戦略が着実に結果として現れ、新型コロナウイルスの影響による巣ごもり需要も相まって売上が好調に推移しました。また、コスト面でも各種原材料費が低減したことで、大幅な増益となりました。海外においては、馬鈴薯不足のあった台湾で収益が落ち込みましたが、概ね計画通りに推移しております。業績は次のとおりです。

売上高は、19,415百万円（前年同期比8.8%増）となりました。利益につきましては、営業利益1,293百万円（前年同期比197.0%増）、経常利益1,317百万円（前年同期比180.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益874百万円（前年同期比267.0%増）となり、売上高、利益とも第2四半期連結累計期間として過去最高となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

<国内>

2021年6月期は、引き続き高付加価値商品の売上拡大を目指すとともに、「Withコロナ」時代のニーズにあわせた商品展開、サプライチェーンマネジメント体制の抜本的見直しによる物流体制再構築、の3つをテーマに据え、事業展開を進めています。

当第2四半期連結会計期間においては、引き続き新型コロナウイルスの影響による巣ごもり需要もあり売上が好調に推移しました。また、生産量増加を背景とし主要原料である馬鈴薯の取り回しが良く、その他コスト削減施策も奏功し、原価率は例年と比較して大きく改善、大幅な利益増加となりました。

商品戦略では、「ムーチョ」ブランドにおいてパッケージリニューアルを行い、ブランドを現代化することで新規顧客層の取り組みを図り、「じゃがいも心地」ブランドではブランド芋を使った商品発売、更に、一度開けても閉じられる仕様で、大袋商品でありながらも購入の敷居を下げた「いつでもチャック」シリーズの展開など、年末に向けても積極的な商品施策を実施しました。

また、「罪なきからあげ」、「HASHED POTATO」、「キャラメル×スコーン」といった「Withコロナ」時代に向けた商品群である「SMART PACK」の販路を拡大した他、機能性表示食品を取得したタブレット商品「Pinky FRESH」の販売開始など、新たな市場創造へも継続してチャレンジしています。

なお、社内において新型コロナウイルス感染者が一部に発生したものの、クラスター発生などには至らず、商品供給を継続いたしております。引き続き感染予防策を継続し、食品メーカーとしての安定供給責務を果たすとともに、「Afterコロナ」を見据えた柔軟な働き方を実現できる制度整備にも取り組んでいます。

一方、2020年12月、弊社京都工場で製造した弊社商品「スティックカラムーチョホットチリ味」の一部に、「スティック海苔カラムーチョスパイシーのり味」が誤って包装されている商品回収事案が発生いたしました。今回の出来事を重大に受け止め、品質管理体制の再強化を図ってまいります。

以上のとおり、堅調な売上推移と積極的な施策が功を奏し、国内の売上高は17,776百万円（前年同期比9.2%増）となり、セグメント利益は1,424百万円（同179.4%増）となりました。

<海外>

台湾事業では、2020年の台湾産馬鈴薯不作の悪影響が売上高、利益の両面で想定を上回っておりますが、収益性の高いコーンや小麦原料の商品は堅調な売れ行きであり、加えてポテトチップスでは利益率の高い「じゃがいも心地」を拡販することで、売上高、利益ともほぼ計画通りの進捗となりました。

ベトナム事業では、新型コロナウイルスの影響により営業活動の強い制約を受けるなど売上が計画に満たなかったものの、営業構造改革による営業効率改善や製造コスト削減が順調に進んでおり、収益は急速に改善しております。

タイ事業においても、新型コロナウイルスの影響とみられるスナック市場低迷の影響を受け売上は苦戦しましたが、販売促進費等抑制による経費コントロールの結果、収益面ではほぼ計画通りの進捗となっております。

以上により、海外の売上高は1,639百万円（前年同期比5.0%増）となり、セグメント損失は92百万円（前年同期はセグメント損失50百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ5,239百万円増加し、28,107百万円となりました。主な要因は、建設仮勘定の増加(1,994百万円)、受取手形及び売掛金の増加(1,565百万円)及び現金及び預金の増加(1,036百万円)によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ4,631百万円増加し、14,805百万円となりました。主な要因は、長期借入金の増加(1,700百万円)、未払金の増加(1,490百万円)及び買掛金の増加(780百万円)によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ608百万円増加し、13,302百万円となり、自己資本比率は47.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向等を踏まえ、2020年8月7日に公表した2021年6月期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,925	4,961
受取手形及び売掛金	6,232	7,797
商品及び製品	940	779
仕掛品	2	5
原材料及び貯蔵品	247	909
その他	498	351
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	11,842	14,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,206	2,158
機械装置及び運搬具(純額)	3,209	3,020
土地	1,622	2,169
建設仮勘定	1,194	3,188
その他(純額)	85	94
有形固定資産合計	8,317	10,632
無形固定資産		
その他	451	422
無形固定資産合計	451	422
投資その他の資産		
その他	2,256	2,250
投資その他の資産合計	2,256	2,250
固定資産合計	11,025	13,305
資産合計	22,868	28,107
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,183	3,963
短期借入金	—	500
未払金	3,424	4,915
未払法人税等	427	476
賞与引当金	4	186
役員賞与引当金	—	22
その他	618	513
流動負債合計	7,658	10,578
固定負債		
長期借入金	—	1,700
退職給付に係る負債	1,802	1,837
その他	713	689
固定負債合計	2,515	4,227
負債合計	10,174	14,805

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,269	2,269
資本剰余金	2,153	2,153
利益剰余金	8,318	8,953
自己株式	△2	△2
株主資本合計	12,739	13,374
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18	12
為替換算調整勘定	△101	△104
退職給付に係る調整累計額	△91	△81
その他の包括利益累計額合計	△174	△173
非支配株主持分	128	101
純資産合計	12,693	13,302
負債純資産合計	22,868	28,107

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
売上高	17,840	19,415
売上原価	10,975	11,468
売上総利益	6,864	7,947
販売費及び一般管理費	6,429	6,653
営業利益	435	1,293
営業外収益		
受取利息	7	6
受取配当金	2	2
投資有価証券売却益	47	16
持分法による投資利益	1	5
その他	7	15
営業外収益合計	67	46
営業外費用		
支払利息	1	3
投資有価証券売却損	18	—
固定資産除却損	5	5
為替差損	—	5
支払手数料	7	8
営業外費用合計	33	22
経常利益	469	1,317
特別利益		
補助金収入	—	15
特別利益合計	—	15
特別損失		
固定資産圧縮損	—	15
製品回収関連費用	—	30
特別損失合計	—	45
税金等調整前四半期純利益	469	1,287
法人税等	188	409
四半期純利益	280	877
非支配株主に帰属する四半期純利益	42	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	238	874

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	280	877
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	△5
為替換算調整勘定	△31	△1
退職給付に係る調整額	10	10
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	△0
その他の包括利益合計	△35	2
四半期包括利益	245	880
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	206	875
非支配株主に係る四半期包括利益	38	4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

従来、税金費用については年度決算と同様の方法により計算していましたが、当第2四半期連結会計期間より、日清食品ホールディングス株式会社の連結子会社になったことに伴い、四半期決算業務の会計処理の統一化により一層の効率化を図る施策の一つとして、当第2四半期連結会計期間より、連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この方法による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社の有形固定資産(リース資産及び使用権資産を除く)の減価償却方法につきましては、従来主として定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

高付加価値商品及び長期安定的な収益獲得を見込める商品を中心とした商品戦略のもと、大規模な設備投資の実行を契機として減価償却方法を再検討いたしました。その結果、設備は安定的に稼働しており、今後は減価償却費を耐用年数期間にわたり均等に費用配分することがより適切と判断し、定額法に変更したものであります。

この結果、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の減価償却費は90百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ90百万円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、スナック菓子の製造販売を中心に事業活動を展開し、「国内」、「海外」の2つを報告セグメントとしております。

「国内」は当社が、「海外」においては在外連結子会社が、それぞれ独立した経営単位で事業活動を展開しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,278	1,562	17,840	—	17,840
セグメント間の内部売上高又は振替高	52	—	52	△52	—
計	16,330	1,562	17,893	△52	17,840
セグメント利益又は損失(△)	509	△50	459	△23	435

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△23百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,776	1,639	19,415	—	19,415
セグメント間の内部売上高又は振替高	56	6	63	△63	—
計	17,832	1,646	19,478	△63	19,415
セグメント利益又は損失(△)	1,424	△92	1,332	△38	1,293

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△38百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社の有形固定資産（リース資産及び使用権資産を除く）の減価償却方法につきましては、従来主として定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この結果、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「国内」のセグメント利益が90百万円増加しております。